

「SDGsの視点から考える地域と暮らし」 映像教材を活用したESDプロジェクトを実施しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパンと協働して次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。



「国連生物多様性の10年（UNDB-J）」主催の生物多様性アクション大賞2015において本プロジェクトは入賞しました。

第10弾ESDプロジェクトは、滋賀県立守山中学校・高等学校にて

「SDGsの視点から考える地域と暮らし」をテーマにESD推進授業を行いました。

守山高等学校は2014年、文科省により「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」

に指定され、グローバルに活躍できる人材育成に取り組んでいます。

※スーパーグローバルハイスクール（SGH）：社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力や問題解決力等の国際的素養を身に付け、国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成する高校。目指すべきグローバル人物像を設定し、国際化を進める国内外の大学を中心に、企業や国際機関等と連携して横断的・総合的な学習、探究的な学習を行っています。

SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をスローガンに、発展途上国のみならず日本を含む先進国も一体となった積極的な取り組みを進めています。滋賀県ではこのSDGsに基づいたESDを推進しています。



SDGsの視点から考える地域と暮らし



2018年2月14日（水）、滋賀県立守山中学校・高等学校の生徒21人と学校関係者約20人を対象に、ICT（情報通信技術）を活用した環境教育の授業を実施しました。今年は同校のSGH課題研究を総括する年にあたり、今回のESDプロジェクトは生徒たちの3年間の活動をサポートしようと企画したものです。

環境教育の授業では、株式会社TREEの今井麻希子コンサルタントがファシリテーターとなり、「SDGsの17の目標」、「スペシャリストに聞くSDGsのターゲット」について解説した映像教材などを用いながら、生徒たちが普段取り組んでいる活動とSDGsとの結び付きについて説明しました。また、琵琶湖の水源の森となっている森林の間伐材を買い取り、市場に流通させる人々の活動を紹介し、持続可能な地域づくりとは何か、生徒たちと考えました。

授業の最後には、「自分が興味を持つSDGsの目標を4つ選んで、どのような取り組みを進めればポジティブインパクトを引き出すことができるか」について考えるワークショップを行いました。生徒たちは、フェアトレードやエシカルファッションなど、普段自分たちが取り組んでいる課題をSDGsと結び付けて、目標に向けたプロセスを考え、発表しました。授業後、生徒からは「同じSDGs目標を選択していても、アプローチの仕方は無限大にあることが分かった」、「SDGsの目標には不可分性や普遍性があり、世界の共通言語になっていてすごいと思った」等の感想が寄せられました。



三井住友信託銀行では今後も、地域の自然・生態系保全活動の活性化と環境教育の実践に努めてまいります。